



全4回シリーズ 鴻巣御殿御参行列開催記念

鴻巣中かりの歴史人

『8傑1姫』

紀行

= 第2回 =

～伊奈忠次・牧野康成の巻～

平成27年11月14日、「鴻巣市合併10周年記念 鴻巣御殿御参行列」を開催します。中山道が歩行者天国となり、鴻巣にゆかりのある歴史人9名(徳川家康、笠原直使主、源経基、渡辺綱、伊奈忠次、牧野康成、石田三成、真田小松姫、真田信重)が登場し、歴史絵巻に包まれます。

前号の石田三成、徳川家康に続き、鴻巣との「ご縁」に着目し、ゆかりの地を紹介します。歴史人を知り、行列を一層楽しみましょう。



❖史跡③ 勝願寺・伊奈氏の墓
(所在地=本町8丁目、交通=鴻巣駅東口から徒歩約10分)
1593年、伊奈備前守忠次は、徳川家康の関東入府に際し代官に任命されました。小室(伊奈町)に陣屋を構え、検地・治水などの関東経営の仕事を全面的に任せられました。関東各地に「備前堀・備前渠・備前堤」など、忠次の功績にちなんだ名称の用水や堤防が残っています。忠次は1万石の領地も賜っていたことから大名でもありました。1610年の忠次の死去後、藩は嫡男の忠政が継ぎ、代官職は次男の忠治が継ぎます。後に藩は、3代藩主の忠勝の死去により改易されてなくなりますが、代官職は伊奈氏が代々引き継ぎ、忠次の残した宿題である、利根川の流路を銚子沖へ付け替える壮大な事業は、忠治の子の忠克の代に完工しました。伊奈氏は江戸を洪水の危機から救ったのです。勝願寺には関東発展のインフラ整備の大恩人「伊奈忠次・忠治」の墓があります。最も背丈の高いものが伊奈氏の墓で、すぐに見つけることができます。



歴史人③

伊奈 忠次



歴史人④

牧野 康成

牧野康成は徳川家康の古くからの家臣で、石戸領5千石の領地を与えられた武将です。石戸の地名は北本市内に現存しますが、当時の領地は上尾市から鴻巣市馬室にかけての広大な領域で、桶川市川田谷に陣屋が置かれました。牧野康成は晩年に馬室を隠居地としたことから鴻巣にご縁があるわけですが、目を見張るのが子孫の発展と鴻巣とのつながりです。康成の子信成は、1万1千石に加増されて大名(石戸藩主)となった後、千葉県の間宿へ移封・加増されました。信成の家督を継いだ親成は、江戸幕府の京都所司代に就任後に移封・加増され丹後田辺藩主となり、代を継いで明治維新を迎えます。丹後田辺は現在の京都府舞鶴市、田辺城の雅称である「舞鶴城」から明治の初めに改称されました。そして、ほぼ全ての歴代藩主と奥方様の墓、更に平成に建立の子孫や、石戸藩主の際の陪臣のお墓も勝願寺にあります。家康公に「ここは尊敬する住職様のお寺だ、どこの大名になっても子々孫々、勝願寺を菩提寺に下さい。」と言われたのでしょうか。舞鶴市の郷土博物館には、墓地の立体図面や、葬祭の実施記録の古文書が保管されています。牧野家墓地は、勝願寺の山門を入れて右側、堀で囲まれた中にあります。現在は中に入ることができませんが、隠れた鴻巣遺産を大切に見守りましょう。



❖史跡④ 勝願寺・牧野家の墓

- ※1 陣屋=代官の住居及び役所が置かれた建物
- ※2 改易=領地を没収し身分を奪うこと
- ※3 加増=領地などを増やすこと
- ※4 移封=大名などを他の領地へ移すこと
- ※5 京都所司代=江戸幕府の職名で、京都の守護や京都、伏見、奈良の3奉行の支配、西国の大名の監視などを行った
- ※6 陪臣=将軍の直接の家臣である大名や旗本が直参、さらにその家臣が陪臣

次回は… 笠原直使主、源経基、渡辺綱を紹介予定

文責：鴻巣御殿御参行列実行委員会(事務局=観光戦略課内・内線2401)

